

札幌市文化財保存活用地域計画の概要

令和元年 10 月

札幌市

背景と目的

背景

- 近年、過疎化や少子高齢化の影響による担い手の減少などから、文化財を次世代に継承していくことが困難に
- 国は、市町村に将来的なビジョンを持ち、継続性・一貫性ある文化財の保存活用を進めるための計画策定を推奨



- ・ 文化庁が歴史文化基本構想を提唱
- ・ 改正文化財保護法の施行（平成 31.4 月～）により文化財保存活用地域計画が規定

- 札幌は、原始からの特色ある歴史文化を背景に発展したが、従来、幕末・明治以降の歴史が取り上げられることが多く、広範な文化財に関心が払われにくい状況
- 地域で継承されてきた文化財が、市民が意識する機会が少ない中で、消滅・散逸の危機に直面
- 札幌市も、文化財等に関する施策の方向性を提示



- ・ 「札幌市まちづくり戦略ビジョン（戦略編）」（産業・活力分野の創造戦略）にて、「魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」の取組として歴史的建造物等を観光資源等に活用する施策の方向性を示す
- ・ 「札幌市文化芸術基本計画（第3期）」にて、「文化財や伝統的な文化等の多様な魅力をまちづくりに積極的に活用し（中略）次の世代への橋渡しを行う」ため、重要施策のひとつとして文化財の保存と活用を掲げる

目的

文化財や歴史文化の価値と魅力を多くの市民が共有し、大切に使いながら将来に継承していくことで、市民にも来訪者にも魅力あるまちづくりを進めるための基本的な方針を示す

計画の位置付け・計画期間

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」及び「札幌市文化芸術基本計画」を踏まえた、文化財の保存・活用の基本計画であり、計画期間は令和2年度～令和6年度の5年間とする

第2章

札幌市の概要

自然環境・地勢

多様な地形・地質、冷温・亜寒帯の移行帯で植物の種類が比較的豊富 等

社会的環境

第3次産業の割合が高く、札幌を含めた北海道経済の成長をけん引する「観光」と「食」に注目 等

歴史的環境

旧石器・縄文・続縄文・擦文文化の遺跡、松前藩がアイヌ民族と交易する商場の成立、幕府の移民政策、開拓使による都市建設 等

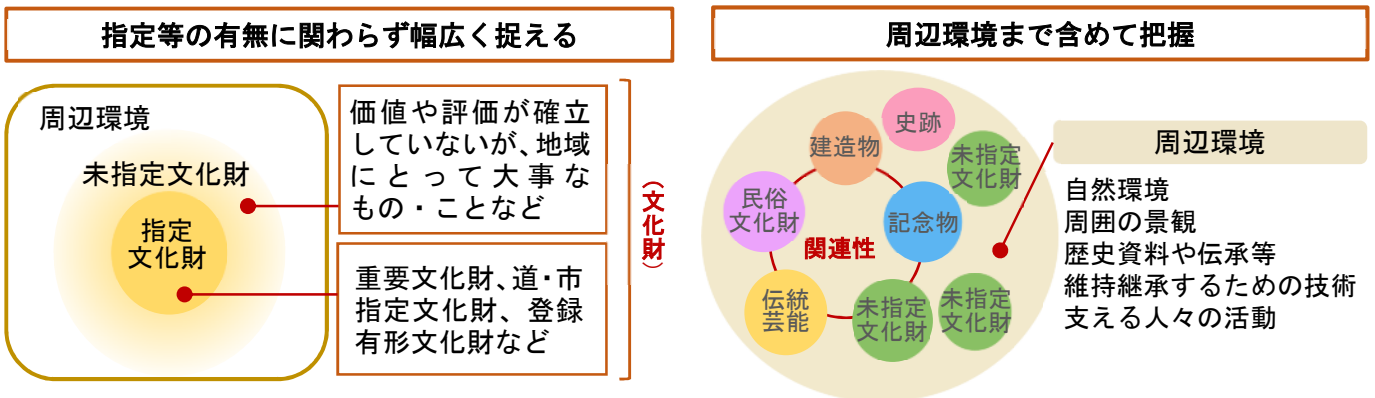
第3章

札幌市の文化財

文化財の把握の方針

法令で指定等がなされているか否かに関わらず、地域の歴史の中で生まれ、育まれ、今日まで守り伝えられてきたものを「文化財」として取り扱い、文化財単体だけではなく周辺環境との結びつきに着目し、一体的に把握する

□文化財の把握の考え方



文化財の現状

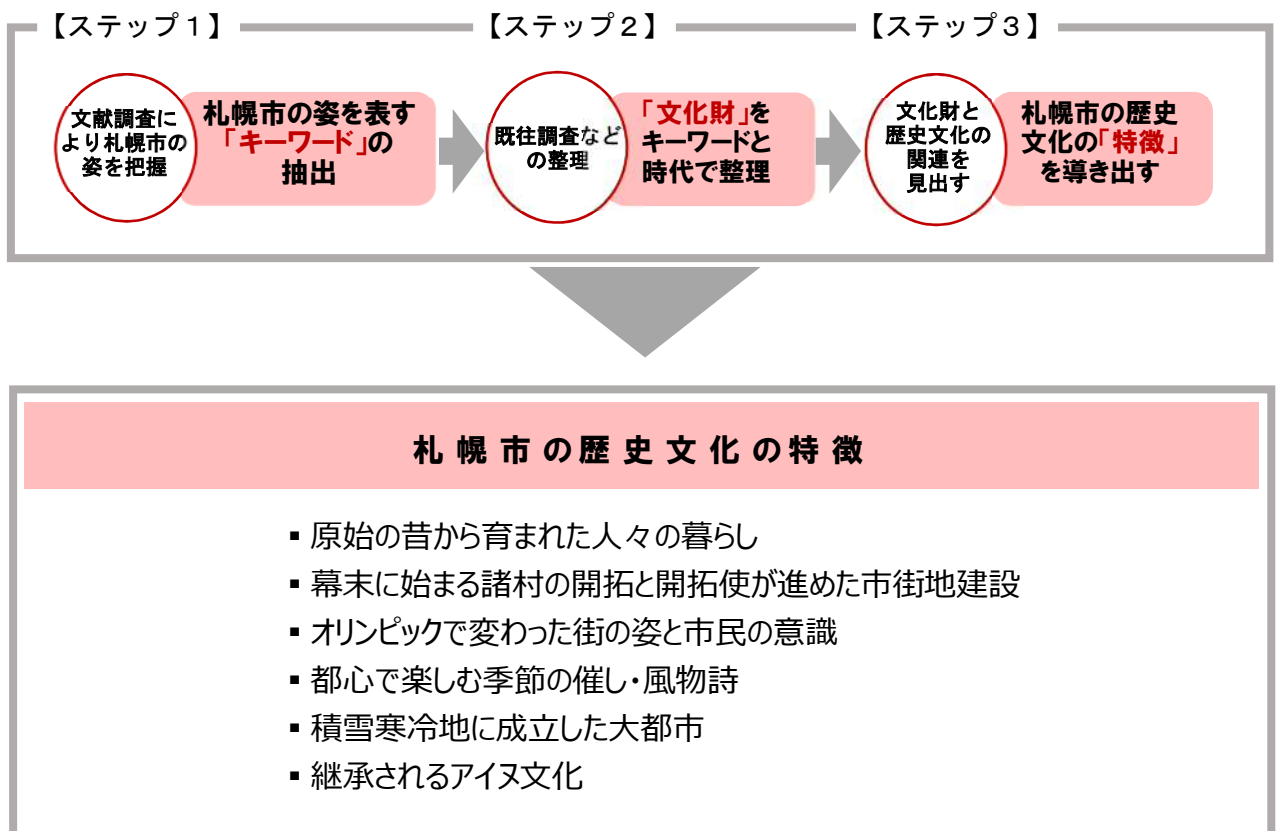
- 指定等文化財は近代以降の建築物が多く、大半を札幌市、北海道、北海道大学が所有
- 指定等外の取組として「さっぽろ・ふるさと文化百選」等

	有形文化財		無形	民俗	記念物 史跡・ 天然記念物	計
	建造物	美術工芸品等				
国指定	7	5	0	2	4	18
道指定	2	2	0	0	0	4
市指定	4	5	1	0	2	12
計	13	12	1	2	6	34
国登録	25					25
合計	38	12	1	2	6	59

札幌市の歴史文化の特徴

- 歴史文化とは、文化財とその周辺環境（自然や景観、支える人々の活動、維持継承する技術、関連する歴史資料や伝承等）とが一体となったもの
- 歴史文化の基盤となる自然環境や地形など（＝空間的観点）、社会を大きく変えた出来事など（＝地域社会的観点）、歴史文化の時代を超えた継承（＝歴史的観点）から、下図のステップで、札幌市の歴史文化の特徴を6つに整理

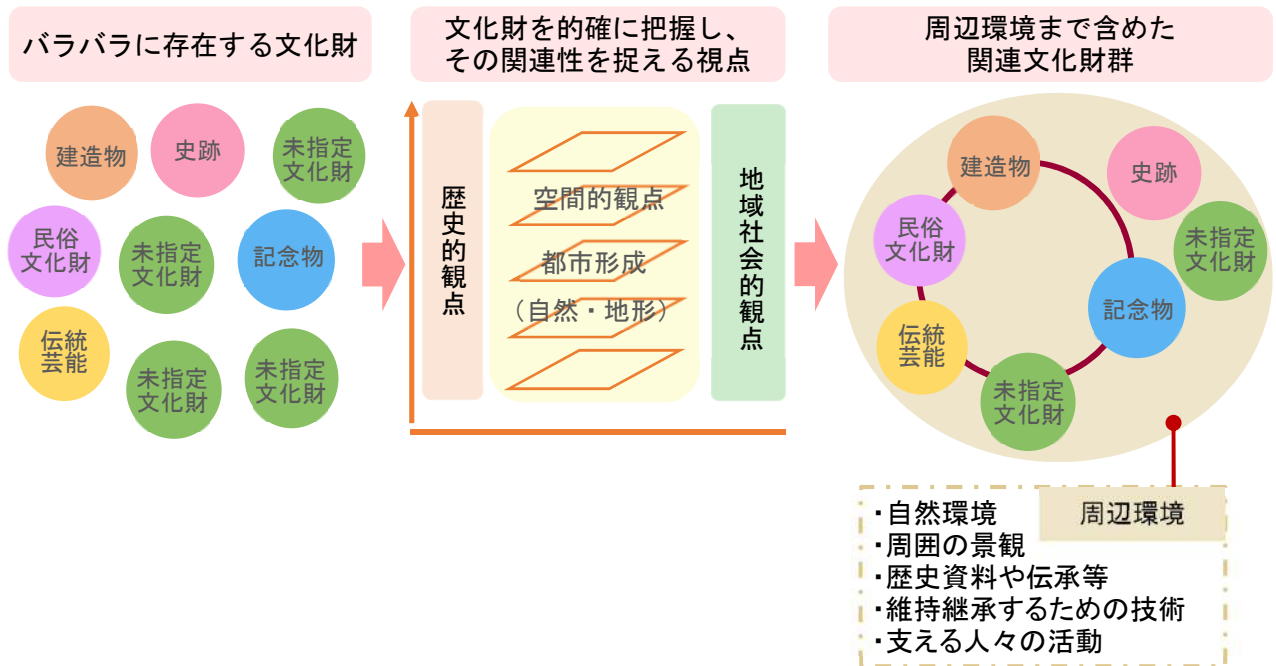
□札幌の歴史文化の特徴の整理（概念図）



関連文化財群の考え方

関連文化財群とは

文化財とその価値を形成する様々な要素（周辺環境）とを一体のものとして捉えたものであり、文化財の本来の価値や魅力を損なわず、様々な形で生かしながら将来に引き継ぐための枠組



札幌市の関連文化財群の考え方

- 歴史文化の価値を市民とともに発見し、札幌の魅力資源として総合的に保存・活用するための枠組として、関連文化財群の考え方をを用いる。
- 概ね以下の要件を備えた「文化財や周辺環境のまとまり」を様々な切り口で選び出し、札幌らしさを表す関連文化財群を設定していく。

札幌市の関連文化財群を設定する際の要件

- ・札幌の歴史文化の特徴をよく表す文化財群を一つのまとまりとして捉えることで、核となる文化財以外の様々な要素（関連する文化財や周辺環境）が見い出され、結果的に、札幌の個性や魅力がより際立つようになるもの
- ・大人から子どもまでが楽しめる物語（ストーリー）によって説明され、これにより、札幌の歴史文化についての魅力のPRや、理解の促進に貢献するもの
- ・市民が愛着や誇りを感じ、自ら守り伝えていきたいと感じるとともに、その魅力を誰かに伝えたいと感じるもの

第5章 文化財の保存活用の方針

保存・活用の現状

札幌市による文化財の保存・活用

- 文化財の保存、文化財施設の活用、埋蔵文化財の保存・活用、地域の文化財の普及・啓発、情報発信・学習機会提供、景観計画に基づく施策等

その他の公的機関による文化財の保存・活用

- 北海道や北海道大学などの、行政及び教育・研究機関の取組

市民団体や事業者等による文化財の保存・活用

- NPO 法人歴史的地域資産研究機構や NPO 法人北海道遺産協議会など、市民や事業者による民間の活動

文化財の保存・活用の課題

文化芸術意識調査等の各種調査、計画策定過程にあたり開催した有識者からなる委員会の意見等より各観点で整理

観点	課題
調査・把握	調査・把握が進んでいない分野がある 等
共有・発信	文化財情報へのアクセス環境未整備 等
保存・伝承	費用や担い手の確保困難 等
活用	幅広い活用モデル不足 等
連携・協働	関係者のネットワーク構築が不十分 等

保存・活用の方針

目指す姿と基本方針

現状と課題等を踏まえ、目指す姿につなげるため基本方針に基づき総合的に取り組む

【目指す姿】

文化財の価値を多くの市民が共有し、
大切に次の世代へ引き継いでいく、
歴史文化の魅力あふれる都市

目指す姿の実現に向けた5つのアクション

基本方針 1 文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める	Action1 見つける	調査・把握の課題に対する取組 文化財や周辺環境を掘り起こし、歴史文化の新たな価値を発見する
	Action2 共有する	共有・発信の課題に対する取組 文化財の価値や歴史文化の魅力を、社会全体で共有する
基本方針 2 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える	Action3 伝える	保存・伝承の課題に対する取組 文化財の価値を保ち、歴史文化の魅力を、次の世代へ引き継ぐ
	Action4 生かす	活用の課題に対する取組 観光や地域振興、教育など、まちづくりの魅力資源として使い、生かす
	Action5 つなげる	連携・協働の課題に対する取組 行政と市民、企業等の事業者、研究者や専門家が連携・協働する体制をつくる

それぞれに期待される役割

- **行政**
文化財の保存・活用方針を示す 等
- **有識者**
文化財に関する相談対応や助言を行う 等
- **文化財所有者**
所有する文化財を適切に次世代へ継承する 等
- **文化財活用者**
文化財を活用した事業を展開する 等
- **市民**
身近な文化財や札幌の歴史について知る 等

文化財の保存・活用の推進体制

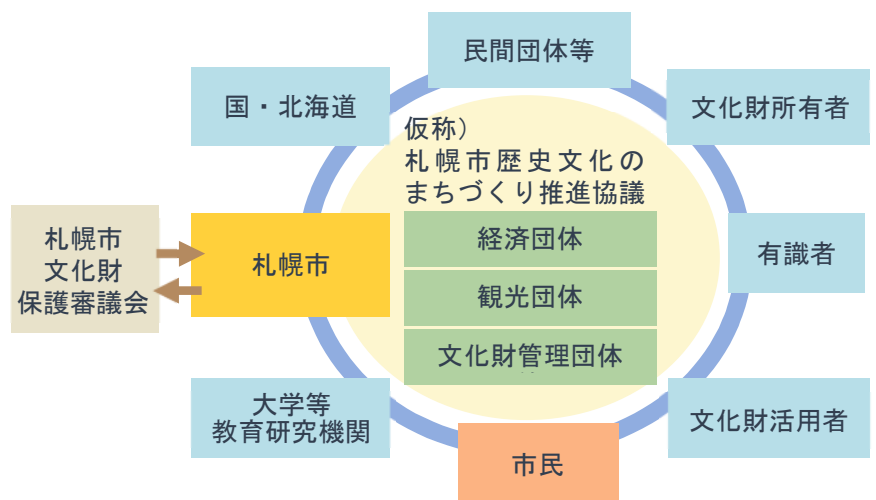
札幌市の体制

- 市民文化局文化部文化財課、関連部局、札幌市文化財保護審議会との連携等
- 指定管理者制度による民間団体との連携等

□連携・協働を促す体制づくり（イメージ）

連携・協働を促す体制づくり

- 社会全体で取り組む体制整備を進めるため、文化財の保存・活用を主導する関係者で構成する協議会を設置
- 構成員イメージ：市・経済観光団体・文化財の管理団体等



協議会による取組

- 計画の普及啓発、関係者ネットワークを広げる機会の創出
- 市民参加による「関連文化財群とストーリー」設定及び設定に向けた取組を支援
- 計画を生かした観光拠点づくり

保存・活用に関する措置の概要

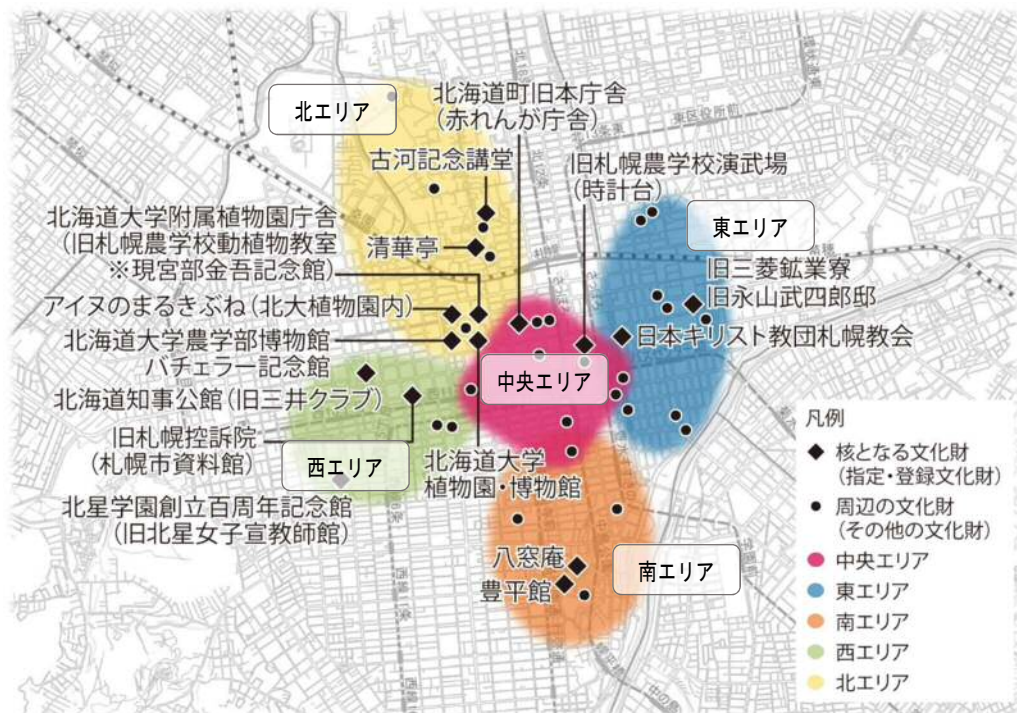
措置についての考え方

- 札幌市における文化財の保存・活用の目指す姿の実現に向け、基本方針 1,2 に従って推進する措置として、様々な取組を示す
- 保存・活用に関する措置を考える上で、対象となる札幌市の文化財の基本的な位置付けについて、以下のとおり考える

【札幌の歴史を伝え、来訪者を魅了する都心エリアの文化財】

- 観光客の往来が盛んな都心エリアに点在する文化財の価値や魅力を損なわないよう、良好な状態で保存することが「歴史文化の魅力あふれる都市」の実現につながる
- 宿泊、飲食、商業施設が集中し、食やイベントなどを目的とした滞在と連動した観光需要が大きいため、これらの文化財をパッケージとして「見せる」ことで札幌の文化財の魅力を分かりやすく伝え、札幌の歴史文化を楽しむ観光拠点形成を目指す

□都心エリアのイメージ



【市民のふるさと意識を育む各地域の文化財】

- 地域の個性を反映する文化財は、地域の歴史文化の正しい理解に欠かせない財産として可能な限り適切に公開し、市民等が文化財に親しみ、その知識と理解を深める場を提供することを目指す
- 行政や専門家は地域の自主性を尊重しながら、適宜、文化財の保存や地域づくりのために必要となる支援や調整等を行い、地域における文化財の継承を促す

措置の概要（計画案より抜粋）

課題	事業内容	取組主体
Action1 見つける 「調査・把握」の課題 に対する取組	文化財の掘り起こしを目的とした市民ワークショップ 市民等が文化財を掘り起こし、観光・地域づくりなどの活用方法について意見交換を行うワークショップ	※ 協議会
Action 2 共有する 「共有・発信」の課題 に対する取組	文化財情報のデータベース化 市内にある文化財情報のデータベース化と公開方法の検討	札幌市
	シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」の開催 文化財や歴史文化の価値と魅力を普及・啓発するシンポジウム	協議会
Action 3 伝える 「保存・伝承」の課題 に対する取組	文化財施設の効率的な維持・保全 市が所有する文化財等10施設の中・長期計画に従った保全工事・耐震化	札幌市
	郷土資料館の維持・管理 地域の保存団体が運営する郷土資料館の維持・管理を支援	札幌市
Action4 生かす 「活用」の課題に対する取組	「関連文化財群とストーリー」の活用モデルづくり 歴史文化のストーリーと、文化財のつながりを生かした多様な活用モデルを見出す	協議会
	サイン整備、解説等の整備（多言語化） 多言語対応を含めた来訪者を意識したサインや配布冊子等の解説の整備等	協議会
Action5 つながる 「連携・協働」の課題 に対する取組	保存・活用に関する課題解決支援 協議会によるネットワークを活用し、民間等による文化財の保存・活用の課題解決につなげる相談機会の創出	協議会
	（仮称）札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会の運営 札幌市・経済観光団体・文化財に関する活動を行う団体等で構成する協議会により、文化財の保存・活用に連携・協働して取り組む体制整備を推進	札幌市

※協議会：（仮称）札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会